

# 行政視察報告書

令和6年11月 5日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員 千 田 貞 之

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

## 記

1. 視察等名 令和6年度総務教育常任委員会行政視察研修
2. 視察期間 令和6年10月21日（月）～10月22日（火）
3. 視察場所及び目的
  - ①岡山県高梁市  
豪雨災害を教訓とした防災対策について
  - ②島根県出雲市  
市立幼稚園の今後のあり方について
4. 調査内容感想等

・視察の目的

①岡山県高梁市に豪雨災害を教訓とした、防災対策について

平成30年7月に起こった災害の状況、対策を聞き今後の本市に生かすため  
防災復興推進課に学んだ。

②島根県出雲市に「市立幼稚園の今後の在り方」について

人口減少、少子化に伴う幼稚園の今後の在り方の検討経緯を聞き本市に生か  
すことを学んだ。

・視察内容

①高梁市は、平成 30 年 7 月に豪雨災害によって被災された。最も被害が多くあった、広瀬地区では住民 17 人がボートで救助され、高倉町、落合町それぞれ生き埋め、安否不明者など救出された。短時間にしかも夜間の豪雨により被災した。

7 月 5 日から 7 月 7 日のわずか 3 日間で一気に降雨量が増えた。

7 月 5 日に避難勧告が一部地域に出され、その後降雨量が下がり、避難勧告が解除になったが、午後 8 時ごろ再び市内全域に避難勧告命令、そして避難指示命令が出された。河川氾濫危険水位が 4, 8 メートルが一気に上昇し、ピーク時は 4 時間余りで 6, 07 メートルまで達した。

被害の大きかった広瀬地区は最高水位 12, 89 メートルに上昇した。

被害状況があまりにも急であったため、自助、共助ではなく公助を求める声が多くあったことは、当然のことではないかと思う。今回は総雨量 470 mm に達した。過去から約 50 年に一回大きな災害が起きている。

今回の災害で、公共施設の被害額 80 億 9 千万円、土木費で 55 億 8000 万円と激甚災害指定を 7 月 24 日に受けた。補助率も 2 分の 1 から 3 分の 2 に増えた。他に、農地被害、断水被害は 48% でほぼ半数が被害を受けた。

その後、自衛隊の支援、義援金 5 億 8 千万円余等、災害協定をしている市町の協力もあった。

被災者支援については、全国、各市町、ボランティア支援等あり市民生活の再建は積極的にされた。しかし、それに伴い災害ごみの量は想定外で、隣接他市町の協力は不可欠であった。

先ず復興計画がされ、10 年間で復旧期、復興期、発展期として 4 つの基本方針のもと進められた。1, 市民生活の再建 2, 災害に強い安全・安心なまちづくりの推進 3, 産業経済の再生 4, 復旧・復興に向けた財政運営を掲げられ「夢をもって住み続けられるまち 高梁」として各種事業補助を出しながら地域防災力の向上を目指し約 5 年間で地域防災力、自主防災組織の設立、活動マニュアルを作り、過去の記録の作成し防災意識の向上を図られた。

②出雲市は、平成 17 年 2 市 4 町が合併し、新出雲市が誕生。その後、平成 23 年 10 月に斐川町が加わり現在の出雲市ができた。

幼稚園は合併前の設置をそのまま引き継ぎ 30 園を（休園 1 を含む）のうち、適正規模園 1 園を除き、殆どが小規模園である。

そこで、園児減少に伴い対応策を検討されてきた。

年々減少する中、令和元年幼児教育、保育の無償化が始まり、市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議の設置がされた。

「より効果的で均衡のとれた幼児教育」「より効果的な幼稚園運営」を行うため現状把握、課題の整理がされた。

結果、○社会情勢の変化に伴う市立幼稚園の役割・意義の希薄化への対応

○質の高い幼児教育の提供の維持 ○集団教育・保育のあり方検討、見直し

令和 6 年度中に各園全ての幼稚園運営協議会へ説明・意見の聴取を行っている。今回、出雲市の各種資料を示していただき、より詳しく説明を受け、すべての保護者アンケート結果、更には審議会において各園の現状を把握するために現地の視察を欠かさず取り組まれていた。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

①高梁市の豪雨災害においては、被災しなければできないではなく、備えあれば憂いなしの考え方で、災害先進地事例をよく精査し、本市に沿うべき対策を講じる必要があると思う。まず、地形の把握、河川の状況把握はタイムリーな判断によるものだと思うので、情報の多さが対応に左右すると思う。県の情報だけでなく本市独自のカメラ、水位計、雨量計等、道路、河川状況がリアルに判断できることが必要ではないか。昨今の異常気象による局地的な天候の変化をいち早く知るにより、次の行動ができる。特に本市は、南北にも長く、東西にも広く市民に対する情報は画一的ではなく多種にしなければならないと思う。今後あるかもしれないを考えてより良い市民の安全、安心を提供するのが、公共の立場ではないだろうか。防災ほど大事なことはないと思う。

②出雲市においては、人口規模が違うが、人口減少率は大差ないように思う。  
その本市より大きな出雲市であるがいち早く今後の幼稚園の在り方について、  
協議されているのは、如何にこれからの少子化を見据えた対応だと思う。

市立幼稚園の認定こども園化は、避けられない事実であるから、「保育所並みの  
長時間預かり」「特別な支援を要する幼児への対応」社会全体で子どもの育ち  
や子育てを支えることを目指し、様々な施策の展開をする。

幼児教育のあるべき姿として、保幼小の連携推進、幼児教育における集団の規  
模の適正化、子ども一人一人の発達、興味に応じた教育、特に探求型の学び、子  
どもに応じた取り組みが必要である。 ICTを用いた教育、適切な指導、家庭と  
の連携強化を進め、保護者とのワークショップ、多様な環境の中でのあり方を必  
要としていると思う。 本市でもできることから取り組み、アンケート調査な  
ど、都度、取り組んでほしい。



高梁市

- 小型消防ポンプ操法大会
- 全国1位

